

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 9 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.8 m ³ /h	33.5	106.1 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	44.4	8.60 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	43.0	0.24 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.09 vol%

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.0
2号機	循環冷却システム	運転中	30.1
3号機	循環冷却システム	運転中	28.8
4号機	循環冷却システム	運転中	38

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	9/3 11:19 ~ 9/4 9:44 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	8/24 10:38 ~ 移送実施中

7/16 13:00~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエアータンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/4 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。なお、6/15に発生したバッチ処理タンクからの水漏れの対応のため、ホット試験を中断中。8/6、多核種除去設備A系の吸着塔(6A)の吸着材を抜き取り、内部点検を行ったところ、フランジ面のすき間腐食と、吸着塔内容接線近傍に腐食に起因すると推定される変色を確認。今後、腐食が確認された原因および影響範囲を評価するため、継続して調査を実施。
- ・H25/6/13 9:49~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちB系統において、水処理設備で処理した廃液を

用いた試験(ホット試験)を開始。

- H25/8/8 12:55～ 6/15に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系9月中旬、A系10月中旬、B系11月以降を目処にホット試験を再開予定。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H25/7/9 10:25～ 1号機サブプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサブプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サブプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を再開。
- H25/8/27～ 4号機使用済燃料プール内の燃料取り出しへ向けて、原子炉ウエル、原子炉压力容器、使用済燃料プール内のガレキ撤去及び炉内機器の移動作業などを適宜実施。

【H4エリアタンクからの水の漏えいについて】

<経緯>

- H25/8/19 9:50 頃、当社社員が、汚染貯蔵タンクエリアのパトロールを実施していたところ、H4エリアの堰内には1～2cm程度の水溜まりがあり、堰のドレン弁の外側に約3m×約3m×約1cmと約0.5m×約6m×約1cmの水溜まりを確認。なお、汚染した水の発生源は特定できていないものの、汚染水を貯留しているタンク周辺の堰内に溜まっていた水がドレン弁を通じて堰外へ漏えいしたこと、タンクに貯留した水がタンクから漏えいしたことが否定できないこと、および堰外に漏えいした水溜まりにおいて高いベータ線、ガンマ線が検出されたことから、14:28に法令に該当する漏えいと判断。その後、同日19:00から堰内に溜まっている水の回収作業を開始。水の回収については、仮設ポンプにて仮設タンクに汲み上げるとともに、堰内に吸着材を設置。8/20 0:00までに回収された水は約4m³。
- 8/20 7:00 頃、同エリア内のIグループNo. 5タンク近傍の底部で水の広がりがあることから、当該タンクの水位を確認した結果、タンク上部から3m40cm程度まで低下していることを確認。近接するタンクの水位は上部から50cm程度であることから、現時点で約3m水位が低下していることを確認。なお、約3mの水位低下分の水量は、約300m³。漏えいしたと思われる水については、堰内の水は一部回収を実施しているが、ドレン弁を通して堰外へ出ていると思われることから周辺の土壌の回収を行うとともに広がり範囲について引き続き調査を実施。
21:55からNo.5タンク内の水および仮設タンクに回収していた水(堰内に溜まっていた水)を同エリア内のBグループNo.10タンクへ移送を開始。8/21 21:13、No.5タンク内の水の移送を終了。8/22 15:00、仮設タンクに回収していた水の移送を完了。
- 8/21 H4エリアタンクの東側にある排水路の壁面において筋状の流れの痕跡が確認されたことから、当該部の表面線量当量率を測定した結果、最大で6.0mSv/h($\gamma + \beta$ 線(70 μ m線量当量率))であることを確認。このことから、汚染した土砂等が排水路に流れた可能性があるとし、今後、詳細な調査および評価を行う。なお、今回の漏水発見当時においては、当該排水路近傍の地表面で水が流れていないことを確認。
- 8/22 11:00から15:00頃にかけて、漏えいしたタンクと同様のフランジ型の他エリアのタンクについて総点検(外観点検、線量測定)を実施。タンクおよびドレン弁の外観点検において、漏えい及び水溜まりは確認されなかったが、H3エリアのタンク周辺において、部分的に線量が高い箇所(2箇所)を確認。なお、当該箇所は乾燥しており、堰内および堰外への流出は確認されなかった。また、当該タンクの水位は受け入れ時と変化がないことを確認している。

[高線量箇所及び表面線量当量率測定結果($\gamma + \beta$ 線(70 μ m線量当量率))、水位レベル]

- H3エリアBグループNo.4タンク底部フランジ近傍:100mSv/h、水位レベル約97%
- H3エリアAグループNo.10タンク底部フランジ近傍:70mSv/h、水位レベル約95%

上記以外のタンク及びドレン弁については、高線量の箇所は確認されていない。

漏えいが確認されたH4エリアIグループNo.5タンク内の水の核種分析を実施。以下の分析結果から、当該タンクに貯蔵されている水がRO濃縮水であることを確認。

<H4エリアIグループNo.5タンク内の水(採取日時:8/23 21:00)>

- セシウム 134:4.4×10¹Bq/cm³
- セシウム 137:9.2×10¹Bq/cm³
- アンチモン 125:5.3×10¹Bq/cm³
- 全ベータ:2.0×10⁶Bq/cm³
- 塩素濃度:5200ppm

また、5・6号機の滞留水の保管等に使用しているフランジタイプタンクの健全性確認(外観目視確認、水位確認)を8/26までに実施し、異常が無いことを確認。

8/25 漏えいが発生したH4エリア内のH4エリア I グループ No.5タンクについて確認を行っていたところ、当該タンク含む3基(H4エリア I グループ No.5タンク、H4エリア I グループ No.10 タンク、H4エリア II グループ No.3タンク)が当初H1エリアに設置されていたこと、H1エリアで当該タンクが設置された基礎で、地盤沈下が起こったため、H2エリアに設置する計画であったが、実際には、H4エリアに設置されていることが判明。No.5タンクからの水漏れと、H1エリアの基礎が地盤沈下した際に設置していた経過があることの影響関係は不明であるが、漏えいリスクの低減対策を以下のとおり実施。

8/25 15:57よりH4エリア I グループ No.10 タンクから、H4エリア B グループ No.10 タンクへの移送を開始。8/27 2:07に同移送を完了。

8/29 H4エリア II グループ No.3タンクからH4エリア B グループ No.10 タンクへの移送を10:30に開始。同日 16:50、一時的に移送を停止(台風 15 号の接近に伴い、堰内に雨水が溜まることが予想され、その際の汲み上げ先としてH4エリアBグループ No.10 タンクを使用する可能性があるため)。

9/2 7:44よりH4エリア II グループ No.3タンクから、H4エリア B グループ No.10 タンクへの移送を実施。同日 11:03、降雨対策のため移送を停止。

H4エリア I グループのドレン弁から、周囲より高い線量が計測されたこと(8/26 公表)について、周囲土壌の汚染の可能性があったことから、8/29に周辺地表面の線量率測定を実施したが、1mSv/hを超える高い線量率箇所はなかった。

8/31 パトロールにおいて、4箇所の高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))を確認。関連する全てのタンクの水位に低下は見られず、排水弁も閉としているため、堰外への漏えいはないと評価。各箇所の線量等量率は以下の通り。

- ・H5エリアIVグループNo.5タンクとH5エリアIVグループNo.6タンクの連結配管部の床面:約 230mSv/h(70 μ m線量当量率)
- ・H3エリアAグループ No.10 タンク底部フランジ近傍:約 220mSv/h(70 μ m線量当量率)(8月 22 日にタンクの点検をした際に、約 70mSv/h が確認されたところと同箇所*1)
- ・H3エリアBグループ No.4タンク底部フランジ近傍:約 1,800mSv/h(70 μ m線量当量率)(8月 22 日にタンクの点検をした際に、約 100mSv/h が確認されたところと同箇所*1)
- ・H4エリア II グループ No.6タンク底部:約 70mSv/h(70 μ m線量当量率)

*1: 8/22 に測定を行っていた箇所について、8/31 に再度測定を実施。値が異なっている原因については、調査していく。

H5エリアIVグループNo.5タンクとH5エリアIVグループNo.6タンクの連結配管部の床面については、パトロールを実施した際に線量が高いこと(100mSv/h(70 μ m線量当量率)以上)が確認されたことから、上部にある配管の保温材を押したところ、床面に水滴が1滴滴下。水が滴下した床面を測定したところ、約 230mSv/hであることを確認。当該の連結配管からの滴下は継続していないが、当該配管下部の床面に変色箇所(乾いた状態)があり、大きさは約 20cm×約 20cmで、床面の変色箇所から離れたところでは、高線量当量率箇所は確認されていない。当該箇所の応急処置として変色のある床面にドレン受けを設置すると共に、当該連結配管に吸着マットの巻き付けを実施。また、H3エリアおよびH4エリアの当該箇所については、継続した滴下がないことを確認している。

H5エリアIVグループNo.5タンクとH5エリアIVグループNo.6タンクの連結配管部からの水の滴下について、連結配管の保温材及び吸着マットを外して状況を確認したところ、各タンクと連結配管を接続している隔離弁(2弁)のうち、No.5タンク側の隔離弁と連結配管を繋いでいるフランジ部より約 90 秒に1滴の滴下があることを、8/31 23:10頃に確認。その後、当該フランジ部に吸着マットを巻き付け、ビニール養生を施すとともに、当該フランジ部の床面にドレン受けを設置。なお、当該連結配管の隔離弁(2弁)については、No.5側およびNo.6側のどちらも閉められていたことを確認している。

9/1 強化しているパトロールにおいて、8/31にH3エリアの高線量当量率箇所が確認された1つのタンクの反対側(北側)において、高線量当量率箇所が確認された。また、8/31 に確認された以下の高線量当量率

箇所において、9/1、再度測定した結果は以下のとおり。

- ・H3-No. 4タンク(北側):1700mSv/h(70 μ m線量当量率)
- ・H3-No. 10タンク:80mSv/h(70 μ m線量当量率)
- ・H3-No. 4タンク(南側):1100mSv/h(70 μ m線量当量率)

※ ガンマ線の値は1mSv/h 未満(測定器の針が振れなかった)であり、大半はベータ線であった。ベータ線は距離をとることで、受ける放射線の量は格段に少なくなるものであり、現場全体の雰囲気線量が上記の線量ということではない。上記線量はパトロール時の線量測定(タンク外表面から概ね1m以内、地上高さ50cm程度を全周測定)で10mSv/h以上が確認された場合、5cmまで近づいて測定した値。

※10mSv/h以上で記録していくことは、原子力規制庁「特定原子力施設監視・評価検討会汚染水対策検討ワーキンググループ第5回会合」において報告したもの。

上記3箇所において、滴下は確認されなかった。今後、漏えいの有無も含め当該箇所の詳細調査を行う予定。なお、上記3箇所以外は、パトロール時の測定(タンク外表面から概ね1m以内、地上高さ50cm程度を全周測定)において、10mSv/h以上が測定された箇所はなかった。

9/1、H5エリアIVグループ No.5タンクとH5エリアIVグループ No.6タンク間の連結配管フランジ部からの滴下について、8/31に実施した当該フランジ部の吸着マット及びビニール養生を取り外し、当該部のフランジボルト12本の増し締めを実施。増し締め後、漏えいの有無の確認のため、30分間保持し、同日14:20に漏えいがないと判断。なお、吸着マット及びビニール養生についても取り付けを完了。また、念のためH5エリアIVグループ No.5タンク、H5エリアIVグループ No.6のタンクの水位レベルの測定を実施し変動のないことを確認。

H5エリアIVグループ No.5タンクとH5エリアIVグループ No.6タンク間の連結配管からの滴下について、連結配管の下部に溜まっていた水の分析の結果は以下の通り

<No.5-No.6タンク連結配管下部漏えい水>

(採取日時:8/31 21:00)

全ベータ:3.0 \times 10⁵Bq/cm³(お知らせ済み)

セシウム 134:25Bq/cm³

セシウム 137:61Bq/cm³

8/22のH4エリア以外のタンク総点検(外観点検、線量測定)において確認された、部分的に線量が高いタンク(H3エリアBグループ No.4タンク、H3エリアAグループ No.10タンク)について、これらのタンクの外部に水の滴下等は確認されていないが、念のため、9/17までの間でタンク内の水をR0廃液供給タンクへ移送予定。なお、H3エリアAグループ No.10タンク内の水の一部については、8/29から通常の移送ラインを使用してR0廃液供給タンクへの移送を開始。

9/2 パトロールにおいて、今まで確認した箇所以外の1箇所で高線量等量率箇所を確認。

・H6エリアAグループ No.7タンク 100mSv/h以上(5cm距離)*²

*²:低レンジ測定器(最大100mSv/hまで測定可)にて測定。

当該部は底板のフランジ締結部であり、汚染水の漏えい等の痕跡はない。今後、高レンジ測定器も使い、引き続き調査予定。

また、H3エリアにて確認されていた高線量等量率箇所3箇所について9/2の測定結果では、1箇所(H3エリアBグループ No.4タンク北側)で10mSv/h以上(50cm距離)を確認。

9/3 パトロールにおいて、これまでお知らせしたH3エリアの2箇所で高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))が確認され、高レンジ測定器も使い線量測定を実施。また、9/2確認された高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率*1))のH6エリアAグループ No.7タンクについて、高レンジ測定器も使い線量測定を実施。なお、50cm距離においては、5.5mSv/hであり、10mSv/hを超えなかった。測定結果は以下の通り。

- ・H3エリアBグループ No.4タンク(北側):40mSv/h(50cm距離)*³
2,200mSv/h(5cm距離)*³
- ・H3エリアBグループ No.4タンク(南側):10mSv/h(50cm距離)*³
400mSv/h(5cm距離)*³
- ・H6エリアAグループ No.7タンク :5.5mSv/h(50cm距離)*³
300mSv/h(5cm距離)*³

*³ 70 μ m線量当量率(ベータ線)の値
(1cm線量当量率(ガンマ線)の値は1mSv/h未満)

また、H6エリアAグループ No.7タンクを含むグループのタンク水位には変動がないことを確認。

<サンプリング実績>

今回のタンクからの漏えいを踏まえ、福島第一南放水口付近、H4エリア付近B-C排水路合流地点、B排水路ふれあい交差点付近、C排水路正門、C排水路 30m 盤出口近傍で水を採取し、核種分析を実施(9/3 採取)。分析結果は、ふれあい交差点近傍(B-0-1)において、全ベータの値が前回(9/2 採取)と比較し、380Bq/Lから67Bq/Lに低下しているが、引き続き経過を観察していく。その他の地点は、前回の測定結果と比較し、大きな変動はない。

9/1、地下水バイパス揚水井No.7～12(6箇所)の水について分析を実施。分析結果は、前回測定値(揚水井No.7～10: 8/29 採取、揚水井No.11, 12: 8/30 採取)と比較して大きな変動はない。今後も継続して経過を観察していく。

【タービン建屋東側の地下水調査状況について】

・1～4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し採取した地下水を分析したところ、1、2号機間の観測孔 No.1 において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値*で検出。今後も引き続き採取分析を行い、監視強化を実施。

※ トリチウム: $4.6 \times 10^5 \sim 5.0 \times 10^5$ Bq/L(採取日: 5/24, 5/31, 6/7)

ストロンチウム $90: 1 \times 10^3$ Bq/L(採取日: 5/24)

<サンプリング実績>

今回新たに掘削した地下水観測孔 No.0-2 のトリチウム測定結果は以下の通り。

<地下水観測孔 No.0-2: 9/2 採取分>

トリチウム: 検出限界値未満【検出限界値: 120Bq/L】

セシウム 134: 検出限界値未満【検出限界値: 0.47Bq/L】(お知らせ済み)

セシウム 137: 0.75 Bq/L(お知らせ済み)

全ベータ: 検出限界値未満【検出限界値: 24Bq/L】(お知らせ済み)

<水の移送状況>

- ・H25/8/9 14:10～ 1・2号機タービン建屋東側に設置した集水ピット(南)から地下水をくみ上げ、2号機立坑Cへの移送を開始。
- 8/15 11:35～ 1・2号機タービン建屋東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な揚水設備)の1箇所から地下水を汲み上げ、2号機立坑Cへの移送を開始(移送において漏えい等の異常がないことを確認)。その後、8/16 11:10 に12箇所、8/17 11:05 に9箇所、8/21 14:10 に1箇所、8/23 8:20 に4箇所を追加し、予定していた 28 箇所すべてのウェルポイントから地下水を汲み上げ、2号機立坑Cへの移送を実施。
- 8/22 14:55 2号機タービン建屋東側に設置されている2号機分岐トレンチ(立坑Bおよび電源ケーブルトレンチ)の閉塞を行うため、当該トレンチ内に滞留している汚染水を2号機タービン建屋へ移送開始。
8/24 13:16 移送を停止(移送終了)。8/29～ 2号機分岐トレンチへの充填材注入を開始予定。残水の水位状況を確認し、今後2号機タービン建屋へ移送を実施予定。
- 8/24 13:55 ウェルポイントから汲み上げた地下水の移送先について、2号機立坑Cより2号機タービン建屋へ切替を実施。8/28 10:58 地下水移送ポンプ追設工事のため、2号機タービン建屋から2号機立坑Cへ切替。追設工事完了(8/31 予定)に伴い、移送先を2号機立坑Cから2号機タービン建屋へ切替を実施予定。
- 8/31 9:32 地下水移送ポンプ追設工事が完了したことから、ウェルポイントおよび集水ピット(南)から2号機立坑Cへの移送を停止。その後、追設ポンプ地下水移送ラインの漏えい確認が終了したことから、同日 10:49、2号機立坑Cへの移送を再開。なお、追設ポンプ地下水移送ライン漏えい確認結果は異常なし。
- 13:03 2号機立坑Bの溜まり水(トレンチ閉塞作業により集められた水)を2号機タービン建屋へ移送開始。同日 15:32 移送を停止。
- 15:50 ウェルポイントおよび集水ピット(南)から2号機立坑Cへの移送を停止し、同日 15:55、2号機タービン建屋への移送を開始。
- 9/3～ 9/3 から 9/13 の日中時間帯に2号機立坑B水(トレンチ閉塞により集められた水)を2号機タービン建屋へ移送するため、ウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水の移送先を順次切替実施中。

<最新の実績>

9/4 12:55 ウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水の移送先を2号機タービン建屋から2号機立坑Cへ切替を実施。同日 13:02 から 14:05 に2号機立坑B水について2号機タービン建屋への移送を実施。2号機立坑B水の移送が終了したことから、同日 14:21、ウェルポイントおよび集水

ピット(南)地下水の移送先を再度、2号機立坑Cから2号機タービン建屋へ切替を実施。

【移送量*： 9/4 16:00 時点までの立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は約 1326m³。】

*集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

- ・H25/9/2～ 2・3号機海水配管トレンチ内の高濃度汚染水の放射能濃度を低減するため、モバイル式処理装置の設置工事を開始。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1 に地下貯水槽の汚染水は全て移送を終了しているが、拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/8/29～ 地下貯水槽 No.4の浮き上がりへの対策として、砕石盛土を開始。

<拡散防止対策>

- ・地下貯水槽漏えい検知孔水(No.1 北東側、No.2 北東側、No.3 南西側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.1～3にろ過水または淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度:約1×10¹Bq/cm³)を移送し希釈する処置を適宜実施。

○最新の希釈実績:地下貯水槽 No.1(6/19～) 8/3、約 60m³のろ過水を注水。

地下貯水槽 No.2(6/27～) 8/1、約 60m³のろ過水を注水。

地下貯水槽 No.3(7/24～) 8/12、約 107m³の当該地下貯水槽ドレン孔水(北東側)を注水。

※8/5 に約 60m³、8/11 に約 51m³、8/12 に約 107m³を希釈および地下貯水槽底面に作用する水圧(揚圧力)の低減を目的に注水。

- ・9/4 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水を仮設地上タンクへ、地下貯水槽 No.1、No. 2のドレン孔に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ移送する処置を実施。

<サンプリング実績>

- ・9/3 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1～4、6の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)、地下水バイパス調査孔a～c(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、地下水バイパス揚水井 No.1～4、海側観測孔(1)～(4)についてサンプリングを実施。分析結果については、前回(地下水バイパス調査孔a～c(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、地下水バイパス揚水井 No.1～4、海側観測孔:8/27 採取、その他:9/2 採取)実施したサンプリングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

また、8/26 から 8/27 にかけて採取した地下水バイパス調査孔a～c(3箇所のうち1箇所は試料採取不可)、地下水バイパス揚水井 No.1～4および海側観測孔(1)～(8)の水についてトリチウムの分析を実施した結果、前回(海側観測孔(5)～(8):8/19 採取、その他:8/20 採取)の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上